

□口繪『小笠原島の春』は、昨年のこの頃丸山氏親しく島へ渡りて寫生せられしもの、枝より垂るゝ實はバナナにして、まだ熟さざるもの候

□中繪の『尾瀬沼』は、昨年臨時増刊の際印刷の結果面白からざりし故、其代りとして挿入せしもの候

□次號の挿繪は、原色版に“Chance”と題するE.F. Brickdale氏の美しき人物水彩畫、及赤城泰舒氏の『沼津海岸』石版には相田寅彦氏の作を出すべく、他の挿繪は未定に御座候

□特別讀者のうちにて、引續き第二期を約せらるゝ人多し、編者は其の御同情の深きを感謝致居候

□『みづゑ』殘本のうち第一より八迄、十より十三迄、及び十五、十七、二十、二十九等品切と相成候、第九、十四、十六、十八等は僅かに二三冊を剩すのみに候、また第四十六(本年一月號)も殘部少なし、三十八號以前の分は十冊以上の注文に限り一部十

錢に割引せしも、遠からず撤回可致候筈、尙再版は容易に出來ぬ故、品切にならぬうち御注文ありたく候

近事

△日本水彩畫會研究所は今回新に本科午前の部に岡精一氏、別科日曜日部に磯部忠一氏入社、専ら教授に盡力せらるべく、全研究所員の先輩たる夏目七策氏、並びに赤城泰舒氏も授業を助けらるべく、去月以來改革をなせしため、研究生も一層勉強の度を高め、頗る好成績を示しつつあり

△全研究所二月例會は、二十八日開會午前大下氏の『苦學樂作』といへる講話あり、午後丸山、岡兩氏の講話に次いで、出品畫百五十點程に對し、丸山、河合、永地、大下諸氏の批評あり、成績佳良にて賞を受けたるものは、相田氏の『靜物』望月氏の『風景』田中氏(横濱支部)の『靜物』の三點にして、終つて月次會を開き、談笑のうちに散會したり

△全研究所春期寫生會は、本月三、四兩日、埼玉縣越ヶ谷地方に催さるべく、三日午前

七時兩國發、全夜大澤の旅宿大松屋に一泊の筈なり、會友の出席は自由なるべし
△太平洋畫會にては、六月一日より一ヶ月間上野公園竹ノ臺陳列會北部に於て展覽會を催さるべし

△白馬會は、本月中旬より赤坂溜池三會堂にて展覽會を開かるべく、本年はヴラスケス其他の摸寫數點出陳さるべしといふ
△東京寫眞研究會第二回品評會は、五月七日より三日間赤坂三會堂にて催さるべし
△森親子商會新輸入の、ウヰリアム、ラファエル商會の水彩繪具は、本誌讀者に限り廣告のため一割引にて發賣せらるゝ筈なり
其在品目はチャイニスホワイト、クロームエロー、ガンボーヂ、エローオークル、プーラシアンブルー、ヴァミリアン、エメラルドグリーン、バアントシーナ、ライトレット、インデゴ、ローアンバー、フツカスグリーン、サツプグリーン、ヴァンダイクブラオン、ニューブルー(以上二十錢宛)ブラオンマツダー、クリムゾンレーキ、カーマインレーキ、オルトラマリン(以上三十錢宛)コバルトブルー、ローズマツダー、カドミウムエロー、ヴヰリジアン、レモンエロー(以上四十五錢宛)の二十六色なりと
△日本橋三越吳服店內にても、彩料品の賣店あれど品數充分取揃ひ居らず、ワットマンは一枚二十五錢なりときく